

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
那須塩原市	西那須野地区 永田町、扇町、あたご町、西大和、西原町、 五軒町、西栄町、東町、西朝日町、南町、西 幸町、下永田1～8丁目、太夫塚1～6丁目	令和3年3月26日	令和4年12月22日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	161ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	117ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	36ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	17ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	3ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	16.5ha
(備考)	

注1：③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2：④の面積は、下記の「(参考) 中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4：プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

地域に住宅地が混在しており、また、農地・農道が狭く農業がしづらい。農地の地代、固定資産税、相続税が高く負担が大きい。兼業農家が多く、後継者のいない経営体が多い。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

地域内の担い手を優先的に、地域内外の中心経営体18人に集約を進める。

住宅地が混在することを活かし、小さな農地を家庭菜園や市民農園として活用する方法を検討し、必要に応じて制度改正等も要望していく。

注1： 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。